

第4A(中)分科会 組織・運営に関する課題

提案主題 学校の組織力向上のための教頭の役割
サブテーマ ～各種ツールを活用した学力向上と不登校対策～
協議の柱 学校の組織力を向上させるための教頭の役割は何か。

提言者 別府市立青山中学校 北村俊雄

1 質 疑

- (1) Q 組織力向上に向けたツール作成に、教頭としてはどのようにかかわってきたのか。
A ツールについては、各主任（ミドルリーダー）に原案を作成してもらい、管理職に説明をしてもらっている。その際、上位のマネジメントツールとつながっているかなどの判断をして指導・助言を行っている。また、作成した主任から全職員に説明をさせている。主任による作成プロセスは大切だと考えている。
- (2) Q 主幹教諭（教務主任）と教頭とのかかわりはどうなっているのか。
A 各主任が作成したツールは、まず初めに主幹教諭にチェックしてもらっている。その際、主幹教諭に教頭より指導・助言を行いながらリーダーとしての育成を図っている。

2 協 議

- (1) 今あるツールを使い、スピーディな対応をしていくことが大切である。また、教頭が中心となり、不登校や学力などの情報を発信していくことも大切である。
- (2) ミドルリーダーと教頭が一緒になり活動していくことが重要である。多忙化の中でミドルリーダーとの話し合いの時間をどう作っていくのか工夫が必要である。
- (3) 学校の組織力向上のためには、まずはしっかりとした仕組みを作っていくことが必要であり、今日の発表は参考になった。持ち帰り、学校で工夫していきたい。
- (4) 教頭が主要主任への指導・助言していくためには、人間関係の向上が必要である。意思疎通がしっかりとできるようにコミュニケーションを図っていく。

3 指導助言

- (1) 青山中学校がなぜ学力向上にV字回復したかという、今でいうアクティブラーニングを取り入れたり、校区の小中学校で統一した清掃のやり方を導入するなど共通の生徒指導をし、全職員が一致団結した結果である。1つ1つをきちっとやり、継続していくことが学力向上につながった。
- (2) 不登校については、ツールを使うことで把握できているが、地域や民生委員などにつなげていく必要がある。
- (3) 人材育成は、失敗してもよいので任せていく。自分で気づき改善させることが大切である。短所を指摘するより、長所を認め伸ばしていくことが必要である。